ARTFORUM

art guide August 2018

Kazuo Kadonaga, *Wood No. 5-CI*, 1984, cedar, 2 x 13 1/2 x 1 3/4'.

ノナカ ヒルの２番目の展覧会では、現代の日本の彫刻家、角永和夫の作品を取り上げます。 1946 年、製材所の家族に生まれた角永は、アーティストになることを選びました。これは、彼が家族の技術を放棄したと言っているのではありません。 正反対です。杉の木は、木、竹、紙、ガラスの元素特性に焦点を合わせた角永の芸術的実践の中心です。

角永は、1970 年代から 1980 年代初頭にかけて制作された杉の彫刻が、ギャラリー全体に展示されることで、最初に認知されました。ウッド No.5-CI、1984 年は、約 800 枚の薄板のベニヤで構成されたスライスされた丸太で、角永が接着されています。 これらの作品は、Paper 1-BF、1983 などの複合和紙（和紙）の作品とともに、蓄積された形をレイヤーごとに瞑想する再構成と呼ばれる可能性があります。

角永の最近のガラス作品の行列は、小さなモニターが古いシリーズの作成を記録する空間の裏側につながります。 ガラスは炉内で赤熱し、液化して注がれて球根状の涙滴の形を作り出します。 結果のフォームインデックスは、プロセスだけでなく時間も含まれます。２日間で作成され、冷却に３か月以上かかる場合があります。

より多くの彫刻がオフィススペースの隅に生息しています。 Glass No. 4 Hs、2004 年はフラットファイルの隣に立っています。一方、小さな和紙スタックと杉ブロックが机の隣にあります。 これらの奥の部屋では、ギャラリーの透明度が角永の透明度と調和していることが明らかになります。 創設者のロドニー氏とタカノナカヒルは、作品に近接しているため、日本で大事にされているがアンジェレノスにはほとんど知られていない作品を共有する意向を示しています。 角永は順調です。

—ソフィー・コーベル

LOS ANGELES

Kazuo Kadonaga
NONAKA-HILL

720 N. Highland Ave
July 21–September 8, 2018